

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500030		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス奥州		
所在地	〒023-0065岩手県奥州市水沢区字水山4-1		
自己評価作成日	平成22年9月29日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500030&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地的に自然に恵まれ学校、保育園も近く常に子供たちの姿、声が確認できる環境である。ご家族、地域は協力的であり、ホームの夏祭りをはじめ避難訓練等の諸行事に、参加、お手伝いをいただいている。地域の各行事への誘いや情報提供がある。ホームとしても地域の一員として参加している。近くの保育園とは日々の散歩や相互の行事等で交流をしている。利用者さんと協同で行う畑、花壇作り、草取り等で四季の移り変わりを楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、一般住宅や商店・会社、保育園や小学校、中学校などと地域を同じくし、地域住民や子どもたち、車などの往来で賑やかな通りに面している。利用者はその子どもたちや地域の方々とのあいさつや立ち寄りなどを通じて交流が深まり、馴染みの関係ができるなか、楽しく明るく元気に過ごされている。職員も、利用者そして家族との信頼関係を保ちながら、明るく・生き生きと・嬉しそうに・笑顔で・応対するをモットーに、利用者の思いをしっかりと受け止め、理念にそって、全職員のチームケアに努めている。道路と接する駐車場には風力・太陽光を活用した夜間照明(ライト)を設置し、往来する地域住民の安全にも気を配るなど、まさに地域の灯台としての場所・役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム シリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩や地域行事への参加、見学を行うだけでなく、ホームの方にも来てもらう機会を設けている。入居者の思いを把握し理念に添ったケアを実践出来るよう努めている。	”住みなれた地域でともに生きる”を基本とした理念を玄関等に掲示し意識の共有を図りながらケアの実践に当たっている。現在、より分かりやすく、密接にケアに連動させることができる様な理念を全職員で検討、見直し作業を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、利用者職員共積極的に参加、交流している。ホームの行事にも協力していただいている。	近隣とは普段の散歩での挨拶・立ち寄り、差し入れ等があるほか、保育園等の子どもたちとは季節の行事等多くの機会を利用して積極的に交流し関係を深めている。職員も利用者とともに行動し事業所が一体となって地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会等で、依頼されお話しをしている。入居申請時や電話での相談に応じている。見学も随時受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議結果を会議録で公表し、意見、助言等をサービスに結び付けている。	会議は、報告や協議だけではなく、外部評価や情報公表制度とは何か、活かし方といった研修の場ともなっている。会議のテーマは、皆さんで協議して決めたり、避難訓練のあと、消防からの講評事項を共有するなど、活発・有意義な会議となっている。	会議運営に工夫がみられるが、更に普段の事業所の悩み事や心配事・困り事のほか、相談したり意見をもらう等応援団として活用し、より有意義な会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿社会課担当者や地域包括支援センター職員に報告相談し、助言等頂いている。又市が実地する研修会等へ参加している。	包括支援センターとは、推進会議を通して連携を図るほか、スプリンクラー設置に関する話し合いなど長寿社会課とも日々連携を図っている。普段は広報紙を持参した際に情報交換するほか、相談ごとについて、電話などで連絡が取れる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会を行い身体拘束をしないケアにとりくんでいる。禁止の標語等事務室に掲示し、職員全員が常に継続的意識を持つよう努めている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を活用し、研修を実施して、知識・意識の向上に努めるほか、普段においても、職員同士注意・確認しあいながら、拘束をしないケアに努めている。玄関には、利用者の見守り用のチャームを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員同士声掛け、情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持つことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当制度について前年度運営推進会議において、講師(市職員)を招き勉強会をおこなった。現在該当なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にアセスメントを行い、契約の際は重用事項説明書、契約書にて説明し理解、納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会記録簿に記入欄を設けている。また、市介護相談員の受け入れをしている。そこで出た案件は職員会議、運営推進会議に報告して意見を聞き改善に繋げていくようにしている。	来所時や電話、お手紙など、いつでもどんなことでも、気がついたことは、お話しして貰えるよう家族との信頼関係づくりに努めている。家族等の来所は頻繁にあり、労いや感謝の言葉は多くあるものの、特に意見等は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員からの意見や提案を聞くように努めている。職員会議で検討することも含めて、できることから実地している。	職員会議や申し送りなどの際、意見等を出し・議論し合っている。職員から休暇のとり方について意見がだされ、みんなで話し合い、本社協議を経て、提案・意見に沿って実現されるなど、提案から検討・意見反映への流れができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じそれぞれの職員が研修受講、勉強会に参加できるよう配慮している。また、資格取得の推奨支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会、勉強会、ホーム間交換研修に交替で参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、要望等をしっかり把握し、対応できること、できない部分の説明をしっかりとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請時、施設見学、家庭訪問の際に要望や希望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にお試し利用が可能で、本人、家族の方々の支援内容を把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除、リネン交換、食事作り、後片付け等生活に関連することは極力参加してもらいながら行っている。会話の機会を多くして、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の都度、その時の状況を伝えるように努めている。広報紙の発行時近況を手紙で知らせている。また、行事への参加も案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの電話の取次ぎや面会に来た際は、ゆっくり過ごせるように配慮をしている。誕生日にはご家族、職員と一緒に馴染みの場所に出かける試みをしている。	普段は、馴染みの床屋・パーマ屋さんに出かけるほか、時には墓参り、親戚や友だちのお見舞いに出かけている。馴染みの人と場との関係の継続という視点から新たに利用者の元勤め先や生まれた所などに出かける試みを行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの役割を考えて、行事、家事の分担等行い利用者同士の関わり合いに配慮している。また、ホーム内に談笑コーナーを設け思い思いの場所を利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望に応じて、できる部分の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い本人の意向を確認したり、ご家族からの情報を得ている。	一部センター方式を取り入れながら、家族からの聞き取りを含めて、利用者の思いや意向を把握し、その後は継続的に、普段の会話や見守りや声かけの中での「気づき」を、連絡ノートに記載し、共有して、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取り可能な部分は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、バイタル記録表に記載している。また、申し送りや毎月のスタッフ会議等で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、ご家族や担当者の意見を取り入れている。	利用者の生活・健康状態について、担当者の普段の見守り・観察、意見等を大切にしながら、毎月モニタリングを実施、三ヶ月ごとに評価し、プランの検討・見直しをしている。利用者の状況に即したケアに努めるべく気を配っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートの活用を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画以外の内容についても、個人やご家族の都合に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、床屋さんの利用、ボランティアの受け入れ、地域活動(いきいきサロン等)への参加等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医への受診を支援している。広報紙を届けホームでの生活状況を知らせている。また、薬、体調について疑問がある際は手紙で伝え指示、助言をもらう。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。定期的通院は家族が同行するも、緊急等やむを得ない場合は職員が同行して受診している。受診の際は、体調等を文書で情報提供するほか、医師から指示、助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職との連携なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	該当者はない。事業所でできることの見極めを行うことが課題である。	重度化や終末期への対応方針や方向性は、現在、直面する利用者がいないことなどから、明確にされていない。なお、対応の方向性を示して欲しいという家族からの要請もあることから、今後、事業所としてどのように対応するか、職員みんなで検討していきたいとしている。	平成19年1月開設して3年経過したが、引き続きホームを利用する利用者・家族の安心等の点から事業者の取り組みの方向性等について長期的な視点で検討することに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は防火防災訓練を行っている。その際は地域、ご家族にも声を掛け参加していただき協力体制を築いている。夜間職員が一人体制の場合も想定して行っている。	地域の方々の参加協力の下で、夜間想定等の訓練をしている。なお、地域の方々には、訓練に参加して頂くのみならず、いざという場合の避難した利用者の見守り誘導等の協力など、具体的に決めている。AED等職員研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時には特に利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないような言葉掛けや対応をしている。(目での合図、言葉掛けの工夫)	大先輩である利用者には「さん」づけ、排泄や入浴の際には、「トイレ」など直接的な言葉で話さないよう、耳元・近くでお話をするなどの工夫をしている。目使い、心づかいでプライバシーの確保に努めている。個人情報、鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がアンケートを取ったり、話し掛けるように心掛け、希望の表示や自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いを大事にしたいが個々の希望に添いきれない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を損なわないような声掛け、利用者の好みの身だしなみに整えられるよう意見を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛り付け、後片付け等利用者と職員と一緒にこなしている。また、献立はリビングに大きく掲示している。	メニューは、日ごろの利用者のおしゃべりの中から汲み取りながら作り、買い物に利用者と職員が出かけている。食事づくりや片付けなどは、利用者が競い合って行いあつという間に終えている。職員も利用者と席を同じくして食べている。	食事の安心を得るために、時には栄養のバランスやカロリーについて、栄養士等専門の意見等を伺うことも一考である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好にあわせた盛り付け、適正な量を提供できるよう配慮している。食事、水分摂取量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの声掛け誘導を行い口腔内の清潔保持に努めている。本人の力に応じて支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた支援の方法を話し合い自立に向けた取り組みをしている。(排泄のサインを見逃さないで誘導。夜間のトイレ誘導。ポータブルトイレの設置等)オムツ使用も減らす方向で話し合いをおこない成果をだしている。	毎日毎回、排泄チェックを行ない利用者の状況をしっかりと把握して、ケアに当たっている。適時適切な見守り支援の結果、オムツから自立した方や失敗が少なくなった方など、それぞれその人にあった細やかな支援によって自立や失敗の減少につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表や個々に聞き出し対応している。水分、野菜を多く摂取できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日置きに入浴できるように計画しているが、個人の要望に応えるように努めている。(一番風呂に入りたい方、お湯の温度調整他)	入浴は利用者の意向に沿って好きな時間帯とするなど、出来る限り入浴を楽しめるよう工夫をしている。入浴は概ね1日おきであるが、入浴しながら歌を歌ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る時間は個々の状況に応じ、気持ちよく眠れるよう支援している。(湿、温度管理含み)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書を見て理解につとめている。体調に変化が見られた場合、医師、家族と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る作業を(掃除、洗濯畳み、食事作り、花に水やり、草取り等)支援している。買物、ドライブ、散歩等気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、ボランティアの協力のもと、外出支援に努めるようにしているが、利用者の希望通りいかない場合もある。交通量が多いので安全対策にも更なる配慮が必要と思われる。	普段は、周辺の散歩や近所のスーパーに買い物に出かけるほか、足を伸ばして桜の花見、紅葉狩り、産直へのドライブや歌謡ショーなどにも出かけている。友人や近隣の方とともに、地域で行なわれている「いきいきサロン」や利用者家族・友人の誘いで温泉や外食に出かける利用者もいる。	利用者の思いや意向について、細やかに把握しながら、気分転換にもつながる外出の機会をできるだけ設けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は立替払いで、個人の現金所持は無いが外出先での様子や希望など伺い一緒に買物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの電話の取次ぎや本人からの「電話を掛けたい」という希望に応じ職員が電話を繋ぎゆっくり話す環境をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの特大暦が目につく。ホールには大きなソファが2つ設置。利用者同士お話ししたり、テレビを観たりしている。廊下の壁には季節の行事に参加した写真が沢山貼ってある。	居間など共用空間は、それほど広くはないものの廊下に「通り名」をつけたり、飾りは壁や柱に整然と配置するなどして、ゆったり感を感じさせる工夫をしている。窓からは、花壇のほか、往来する子どもたちや住民の姿が見え、あいさつを交わすなど楽しく居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士部屋を訪問する時は、椅子を用意したり、ゆっくり談笑できる環境を作る。東ホールにも談笑できるコーナーがあり、ホールから見える花壇作りにも配慮し季節の花が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒、テレビ、遺影、等馴染みや思い出の品が置かれている。パズルや歌の本なども持ちこまれ、それぞれの部屋を作っている。	壁には、家族の写真やカレンダーが張られ、タンスの上には、目覚まし時計や好きな人形など思い思い置かれている。各居室は、きれいに整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立した生活が支援できるよう、要所に手すりの設置。トイレ、浴室、部屋の入り口には個々に合せ表示をしている。		